属人区長の書簡 (2014年3月)

属人区長は、今月祝われるドンを証100周年、今月祝われるドン・世誕100周年、中生誕100周年、中央の記念日を機しまででは、「この数にでは、「この数にでは、「この数にでは、「この数にでは、「この数にでは、「この数にでは、「この数にでは、「でいる。」という。

2014/03/11

する皆さん、イエスが私の娘たちと 息子たちをお守りくださいますよう に!

今月は特別な意味合いのある月です。というのも聖母のお告げと聖ヨセフの祭日を祝うからです。お二人には、神の計画への忠実が燦然と輝いています。お二人とも愛することを熟知しておられ、主がお望みになったことをすべてお果たしになりました。

さらに私たちにとって、ドン・アルバロの生誕100周年とdies natálisつまり帰天20周年の記念日を祝う年でもあります。そのご生涯には超真ないるとは超りな忠実の徳が稀有な真ないます。また、28日の創立者の叙階記念日も神のみ旨のの全面的な忠誠を語りかけます。する、不可侵で確固とした忠実、「1」

を思い起こさせます。ですから、この数週間―感謝のうちに深く糾明し―、一人ひとりが頂いた神の呼びかけにどのように応えているかをよく考えることにしましょう。

間近に迫った四旬節は、この小道を きっぱりとした足取りで進むよう促 してくれます。四旬節は「次のよう な根本的な質問に答える | 時期で す。「『キリストに対してより忠実 になっていますか。』『聖人になる 望みは強まってきましたか。』『日 常生活・仕事・隣人愛において使徒 職への熱意は大きくなってきました か。』| [2]また、他の時期にも、よ り熱心に祈り、より惜しみない心で 犠牲を捧げ、霊的物的な慈善を頻繁 に実行しましょう。信仰と愛徳に基 づいた行為の数々は私たちの忠実の 望みをいやが上にも高めてくれま す。これは気持ちの問題ではありま せん。疲れたり、哀れな自己を引き ずったりすることがあるとしても、

夢中で愛している人固有の意気込み です。

数日もすると愛するドン・アルバロ の生誕百周年の記念日です。年の初 めから3月11日を意識に刻み付け、 制限なしに捧げつくし、オプス・デ イの精神を驚くほど十全に自分のも のにした聖ホセマリアのこの息子の 模範に目を凝らしてきました。教会 は、諸徳に関する教令で、そのもっ とも際立ったこの徳についてこう述 べています。「その忠実は疑う余地 がない。まずもって、み旨を迅速か つ寛大に行なう神への忠実、そして 教会と教皇への忠実、また司祭職へ の忠実、さらに生涯の各瞬間とあら ゆる状況におけるキリスト者として の召命への忠実に表れている。| [3] そして、ドン・アルバロの生涯は 「愛徳と忠実においてすべてのキリ スト者の模範となった| [4]と結論付 けています。

人としての忠実は神への忠実と分かまがたく一つになっています。『はされていますとの道はことではないます。』[5]聖書はこれではいます。』[5]聖書はは、一次の本質のの本質のなりではない。「彼らの本質がはないではないではない。「彼られます。「彼られます。「彼られます。」[6]

ドン・アルバロは、アブラハムと モーゼから新約の聖人たちにいたる まで連綿と続く神に忠実だった人々 の列に加わります。彼らは全存在を 傾けて、受け取った計画の遂行に邁 進しました。内外の困難や苦悶、迫 害などいかなることも、神のお望み から彼らを引き離すことなど金輪際 できなかったのです。神の愛すべき み旨にしっかりとつかまっていたか らです。

「アブラハムが求められたのは、こ のみことばに身をゆだねることで す。信仰は次のことを悟ります。は かなく過ぎ去るように見えることば も、忠実な神によって語られると き、きわめて確かで揺るぎないもの となり、わたしたちが時間の中で歩 み続けることを可能にします。信仰 はこのみことばを確かな岩として受 け入れます。この岩の上に堅固な基 盤を築くことができるからです。| [7]そしてベネデイクト16世は「忠実 であり続けること、それが愛という 名詞です| [8]と言っておられまし た。

ドン・アルバロは、大切な記念日にはいつでも「ありがとうございます、ごめんなさい、もっとお助けを」と主に頼んでおられました。生きていらしたら、生誕100周年記念

日にも同じようになさることでしょう。私たちにとってもこの三語はに 位一体に対する素晴らしい祈しにおます。想像できないほど多ににある ある数多くのお恵みを頂いたことが 感謝し、私たちの落ち度や罪のとる しを願い、よい忠実なしもできる しなよく仕え続けることがです。

ドン・アルバロは、いつであった か、同じ記念日に、過ぎ去った年月 を思い起こし、コメントされたこと があります。その内容は私たちに とっても、いろいろな理由から、特 に自分の失敗や弱さを思い知らされ たとき、神に心を向けるために役立 ちます。そのコメントは、希望に満 ちた言葉でしたし、今もそうです。 「自分の人生の暦には、過去のこと ばかりです。過去のことに違いあり ませんが、くず入れに投げ込まれた わけではありません。神はすべての ことをご存じだからです。主のお恵 また主は無限の忍耐をもって、何年 も何ヶ月も何週間も、ゆるし、かったちにの間も、は、励ましつつ私たちに、多とはないで、ないと前の割立者を知らない。割立者をがげる自立者をがいる。 を知り、それに、創立者は天国がら続い。 それに、創立者は会話をきった。 は、とお望みなのです。創立とお望みなの精神と共に、 オプス・ディの精神と共に、 なる非常に具体的な手段を私たちに 託されました。主が多くの人に勧め られるこの道をしっかりと歩むこと です。神の御助けと、聖母と聖ヨセ フ、そして聖ホセマリアの取次ぎに よって、多くの人がすでに終着点ま で駆け抜けた道です…。 póssumus[10], 私たちにもこの小道

を全うすることができます。

3月19日の聖ヨセフの祭日も、神と 人々への私たちの献身を新たにする よう促します。主は永遠から全とて キリスト者にイエス・キリストま でおいておられます。 聖ヨゼフは、聖マリアの次にでする とこの招きに最深いしもべ、ずま で思慮深とされた。」 「11] そ れゆえ、聖ヨセフは教会とオアの にであり、イエスの全 の弟子たちの模範です。 倦むことなく繰り返しますが、ド ン・アルバロは忠実な方でした。キ リスト者として、司祭として、司教 として、忠実でした。聖ホセマリア のコメントです。「皆がいろいろな 点で、何よりも、忠誠という点で彼 に倣って欲しいと思います。召し出 し後の何十年もの間には、一人間的 な観点で言うのですが ― 立腹した り煩わしく思ったり、不忠実になっ たりする機会がたくさんあったで しょう。しかし、いつも微笑み、比 類のない忠実を保ちました。それ は、自然徳によるものではなく、超 自然的な理由からのものでした。こ の点で彼に倣うことはこの上もなく 素晴らしいことです。| [12]

その絶えざる堅忍は、まったく超自然的なものであり、人間としての忠誠に根ざしていました。それは幼いときから家庭で学んだもので、その後、年代と共に強化されて行きました。なんと必要な徳であることで

と。これは既に戦うことなので す。| [14]

心と感情は、信仰に照らされた理性 で、統率され、制御されることが必 要です。「(心と感情は)、神に対し て心惜しみしないよう助けてくれま すが、しかし、それを私たちの忠実 の唯一の支えとしたり原動力にした りすることはできません。感傷主義 に陥り、私たちの愛を歪めてしまい 本当に危険なことになってしまうか らです。多くの人が気持ちだけを重 視し、知性にはあまり気をかけず、 心を頼りにしています。する気があ れば、やりたければ、自分の感情を 軸に全てが可能と考え、反対に気持 ちが伴わないと落ち込んでしまいま す。私たちはこのような罠を警戒し なければなりません(…)。ただこう してのみ、試みの時、不忠実を正当 化することなど決してできないこと に気付きます。 | [15]

ドン・アルバロは、主の呼びかけを 最優先させ、完璧に従われました。 神はドン・アルバロに人間的にも超 自然的にも際立った資質を付与さ れ、ドン・アルバロはそれを全て、 受け取った使命遂行のために役立て ました。司祭叙階の少し前に、マド リード司教ドン・レオポルドによる コメントに対して、ドン・アルバロ が答えた内容はよく知られていま す。まず、ドン・レオポルドが、次 のようにコメントしました。ドン・ アルバロは、民間の資格そして学位 でも優秀なものを備えていたので、 教会内でも高く評価され尊敬を受け ていました。創立者から教会内での 多くの手続きを任されていたため、 その存在はよく知られていたので す。ドン・レオポルドは次のように 続けました。叙階によって、全てを 捨てた後は、そういった世間的評価 を失うことになります、と。それに 対して、ドン・アルバロはこう答え たのです。「別にそれは気になりま

せん。オプス・デイにおいて聖性を求めるようにという神の招きにを記されたときから、人間的な名声や計画を計しまるではなど全てを神になる、神を変し、神を望まれたのでするとを望まれたのでは、教会に仕えるではな道具になるため「隠れ、消え去ること」を望まれました。

す。その後、オプス・デイの信者と 世界中の多くの人たちに恩恵を伝え るパイプ役になるようにと。

Vir fidélis multum laudábitur[16], 忠 実な人は多くの祝福を受ける。私た ちは、聖書のこの言葉を理屈ぬきで 愛するドン・アルバロに当てはめる ことができます。ヨハネ・パウロニ 世が、このよき父・最高の牧者の帰 天当日、1994年3月23日に送って下 さった電報で言われたことです。オ プス・デイの全信者に心からのお悔 やみを述べ、「主への感謝のうちに 司祭として司教としての熱意に燃 え、常に神のみ摂理の中で剛毅と信 頼に満ちた生前の生活を上思い起こ しておられました。「こうして、聖 座への際立つ忠実のうちに、親密な 協力者として教会に仕え、(…)ホセ マリア・エスクリバーの賞替すべき 後継者でした。| [17]

今月末にはもう一つ、このキリスト 教的徳を思い起こさせるすばらしい 記念日があります。創立者の司祭叙 階記念日です。創立者は、1925年3 月28日、新たな形で秘蹟的に忠実の 約束を固めました。それは既に少年 時代に神の招きを予感して打ち震え たときから暖めてきたことでした。 それをいつも現行的に効果的に保 ち、晩年には、次のように確言する ことができました。「決して迷わな いで下さい。今から言っておきます (…)。あなた方は神から召し出され ました。キリスト・イエスは、永遠 からあなた方を呼んでくださったの です。名指しで呼ばれただけではな く、額に口づけされたのです。です から、私には皆さんの頭が、暁の明 星のように光り輝いて見えます。

明星にも歴史があります…。途方もなくすばらしいダイヤモンドのような星が、薄暗い夜空高く、たくさん瞬いています。このように、皆さん

一人ひとりと私の召し出しははっき りしているのです。」[18]

教会と教皇様のため、特にその黙想 期間中、熱心に祈り続けましょう。 私は明日から年の黙想に入ります。 その後、教皇庁立聖十字架大学が12 日から14日にかけて計画しているド ン・アルバロの生誕100周年に関す る会議に出席します。今日、いつも のように喜びのうちに、聖ホセマリ ア教会で、属人区のアソシエートニ 人に助祭叙階の秘蹟を授けます。彼 らがこの新たな召し出しに心から忠 実であるよう主にお願いしましょ う。そして、全ての神学生と世界中 の聖職者のためにも祈りましょう。

22日に、ドン・アルバロ帰天記念の ごミサを聖エウジェニオ大聖堂で捧 げることをお知らせせずにこの手紙 を終えることはできません。このミ サで、私はいつも以上にできる限り 皆さんと一致します。そして、教皇 様もたびたび思い出されることを主にお願いします。私たちが全面的に忠実で、霊魂への熱意で満たしてくださいと。いつも皆さんにお願いしているように、私の意向を支えてください。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

ハビエル

ローマ、2014年3月1日

[1]聖ホセマリア1931年3月24日手紙 43番。

[2]聖ホセマリア『知識の香』58番。

[3]列聖省、ローマ、2012年6月28日神のしもベアルバロ・デル・ポルティーリョの諸徳に関する教令。

[4]同上。

[5]詩篇145,17。

[6]教皇フランシスコ2013年6月29日 回勅『信仰の光』50番。

[7]同上 10番。

[8]ベネデイクト16世2010年5月12日 ファティマでの説教。

[9]ドン・アルバロ1991年3月11日家 族の集まりでのメモ。

[10]マタイ 20,22.

[11]ローマミサ典書聖ヨセフの祭日 の入祭唱(ルカ12,42)。

[12]聖ホセマリア1974年2月19日家 族の集まりのメモ。 [13]ドン・アルバロ1987年2月1日手 紙(『ドン・アルバロの手紙』②)。

[14]聖ホセマリア年月説教のメモ (『神との語り合い』137ページ、四 段目)。

[15]ドン・アルバロ1992年3月19日 手紙 3番。

[16]格言の書 28,20.

[17]ヨハネ・パウロ二世1994年3月 23日付ハビエル・エチェバリア師へ の電報。

[18]聖ホセマリア、1975年3月19日 説教のメモ。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2014nian-3yue/ (2025/12/16)